

英語の語彙学習に苦手意識を持つ高校生に対する 語彙指導の実践とその効果の考察

坂本 美佳

(滋賀県立長浜北高等学校)

1. はじめに

英語（外国語）学習において、語彙力は英語を理解する上で土台となる重要な要素である。文法や発音といった他の要素も重要であるが、語彙力がなければ英語を理解したり表現したりすることはできない。文部科学省（2018）によると、外国語科の目標は、「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す」とある。語彙力を育成することができなければこのような目標に向かうことは困難である。

語彙力とは、単語の意味や用法を知っていることだけでなく、その単語が文脈の中で持つ意味やニュアンスまで理解していることを意味する。これまで中学校段階で、英単語とその逐語訳（辞書に書かれている訳）の日本語をセットに暗記を強要されて学んで来た場合、語彙力を身に付けることは容易ではなかったと考えられる。

また、単語帳を使っただけの自宅学習前提の語彙学習のような学習者任せの学習ではなく、教師が教科書を題材に、どのように学習者の語彙学習を支援することができるか検討する。

ベネッセ教育総合研究所（2014）の中高生の英語学習に関する実態調査2014において、「あなたは英語が得意ですか、苦手ですか。」という質問に対して、中学生の約44%、高校生の約54%程度が苦手（やや苦手・とても苦手）だと回答しており、また、英語学習のつまずきの中で、「単語を覚えるのが難しい」と回答している中学生は59%、高校生は67.7%いると報告されている。本実践報告では、このように中学校時代から英語の語彙習得に苦手意識を持つ生徒に対し、高等学校の「英語コミュニケーションⅠ」の授業で、どのように語彙指導を展開することが生徒の語彙習得の苦手意識を払拭し、英語力の増強に繋がるのかを考察する。

2. 研究開発の仮説設定

- (1) 4技能（聞く・読む・話す・書く）を使い、文脈の中で単語を学習させる：単語を孤立して学習するのではなく、4技能を使いながら、文脈の中で学習させることで、より深く理解することができるのではないかと。
- (2) 復習を大切にする：せっかく学習した単語も、復習しなければすぐに忘れてしまうので、効果的な復習のあり方を提示すべきではないかと。
- (3) 単調になりがちな語彙学習に興味関心を高める：語彙学習を単調な作業にしてし

まうのではなく、ゲームやアクティビティなどを活用して、学習者の興味関心を高めることが重要ではないか。

(4) 個別指導を取り入れる: 個別指導を取り入れることで、学習者の理解度を確認しながら指導を進めることができ、効果が上がるのではないか。振り返りシートを使い、毎回の学習を振り返らせる。教師はコメントや解説を書いて返却する。

(5) 多様な学習方法で語彙学習を行うことで、より深い語彙学習ができるのではないか。

3. 研究対象生徒の現状と課題

1週間当たり3時間、英語コミュニケーションIを受講している本校1年生2クラスの生徒80人を研究対象とする。全員が中学生の時にNew Horizonを使っており、その教科書からランダムに200語の単語(と熟語)を選び、英単語に対する日本語訳を書くテストを4月当初に行った。その結果、平均正答率は49%であった。また、最高正答率は82%、最低正答率は21%であった。この結果より、全体的に中学校卒業レベルの英語の語彙力は定着しておらず、英語学習に困難を抱えていると推察される。

また、4月当初に英語語彙学習に関するアンケートを行った。その結果は以下の表のとおりである。(4 あてはまる 3 どちらかと言えばあてはまる 2 あまりあてはまらない 1 まったくあてはまらない)

<英語学習、英語語彙学習について>

質問項目	4	3	2	1
英語が得意である。	5%	18%	42%	35%
英単語を覚えるのは、得意だ。	4%	34%	44%	18%

上記の表により、英語が得意であると答えている生徒は23%、また、英単語を覚えるのが得意な生徒は38%であり、全体としては、英語学習や英語語彙学習に苦手意識を持っている生徒が多いことが分かる。これは上記のベネッセの調査と重なる学習者の傾向である。

<英語の語彙学習が難しいと思う理由>

質問項目	4	3	2	1
覚える単語が多すぎるから。	55%	34%	8%	3%
1つの英単語にたくさんの意味があるため難しいから。	37%	41%	16%	7%
熟語の独特な意味が覚えられないから。	36%	41%	20%	4%

英語の語彙学習が難しいと思う理由上位3位の結果を分析する。上記の表により、語彙学習には様々な側面があり、ただ英語の語彙に相当する日本語訳を覚えるだけでは不十分であることを生徒が自覚していることが読み取れる。また、英単語の膨大な量に対応することに困難を抱えていることも推察される。

＜今行っている英語語彙学習の傾向について＞

質問項目	4	3	2	1
何度も繰り返し見て覚えようとしている。	20%	43%	29%	8%
日本語訳を一生懸命覚えようとしている。	14%	47%	28%	11%
ただ単語をノートにたくさん書いている。	20%	36%	22%	22%

今行っている英語語彙学習の傾向について上位3位の結果を分析する。上記の表により、生徒は英語の語彙の適切な学習法を知らずに、ただ覚えようとしている態度が読み取れる。教師はどのように語彙を学んでいくか、学習法を指導した上で、授業の中で練習を行うなど、語彙学習には教師の介入が必要であることが推察される。

4. 実践概要

4.1 授業のおおまかな流れ（この流れをレッスン毎の1つのパートにおいて2時間で行う。）

- 1) 新出文法事項の明示的説明。
- 2) 語彙の導入。（日本語と英語をペアにした簡単なワークシートを使う）
- 3) ワークシートを使い、様々なタスクを通してのリスニング活動とそれに続くリーディング活動
- 4) 本文の様々な音読活動
- 5) 内容について、絵を描写するアウトプット活動。（キーワードを見ながらペアでスピーキング活動とそれに続くライティング活動。）
- 6) リフレクションシートを書く。

4.2 仮説に基づいた実践概要

仮説1 文脈の中で単語を学習させる。

- 1) 生徒はワークシートの中の以下のようなリスニングタスクとリーディングタスクに取り組みの中で語彙を学習する。以下は全体のタスクの一部である。

【Task 4】 Listen to the CD, read the textbook at the same time and fill in the blanks in English.

【Task 5】 Read the passage, give a title in English to part 2, and talk about it with your partner.

【Task 6】 Read the passage and answer the questions below.

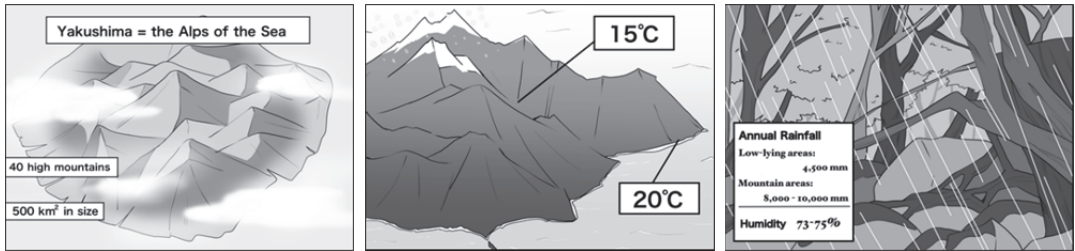
1. Which is the smallest, Yakushima, Tokyo, or Osaka?
2. Why is Yakushima called “the Alps of the Sea”?

【Task 7】 Read the passage and answer the T / F questions below:

1. Yakushima is larger than Tokyo.
2. Yakushima has over 40 mountains which are more than 1,000 m high.

【Task 9】 Listen to the CD and fill in the blanks in English.

- 2) 生徒はパートの最後に、以下のような絵を見ながら書かれているキーワードを使いながら、学習した内容のリプロダクションをまずはペアになって口頭で行う。その後、個人でリプロダクションの内容を英語で書く。



Key Words

- land features / a round island / forest / square kilometers / forest / mountains / the Alps
- climate / warm and humid / temperature / degrees Celsius / coastal / central / zero / snow
- rain / rainfall / low-lying / humidity / a unique ecosystem

仮説2 復習を大切にする。

- 生徒はノートを使い、①音読筆写と②日本語訳を見て英訳することで、それぞれのパートにつき2回本文を書くことで、学んだ語彙を復習する。
- 生徒は、Chat GPT を使って、別の表現に書き替えさせた本文の穴あきを埋めるワークシートに取り組む。新出単語を中心に穴あきにして、生徒はその穴をリストから選んで埋めることで、別の文脈で学習した単語を使えるように復習する。
- 生徒は語彙探究ワークシートを完成する。パートが終わるごとに一つの単語を選び、個人で①品詞②意味③語源④同義語を調べる。また、自分が選んだ単語を使って、例文を3文作る。

その際、辞書の例文を参考にしつつ、自分で考えるように促した。このように、辞書を使い、学んだ単語を様々な視点から見ることを通して、学習した語彙について深く学習させる。

語彙探究	
選んだ単語	
品詞	
意味	
語源	
同義語	
例文	

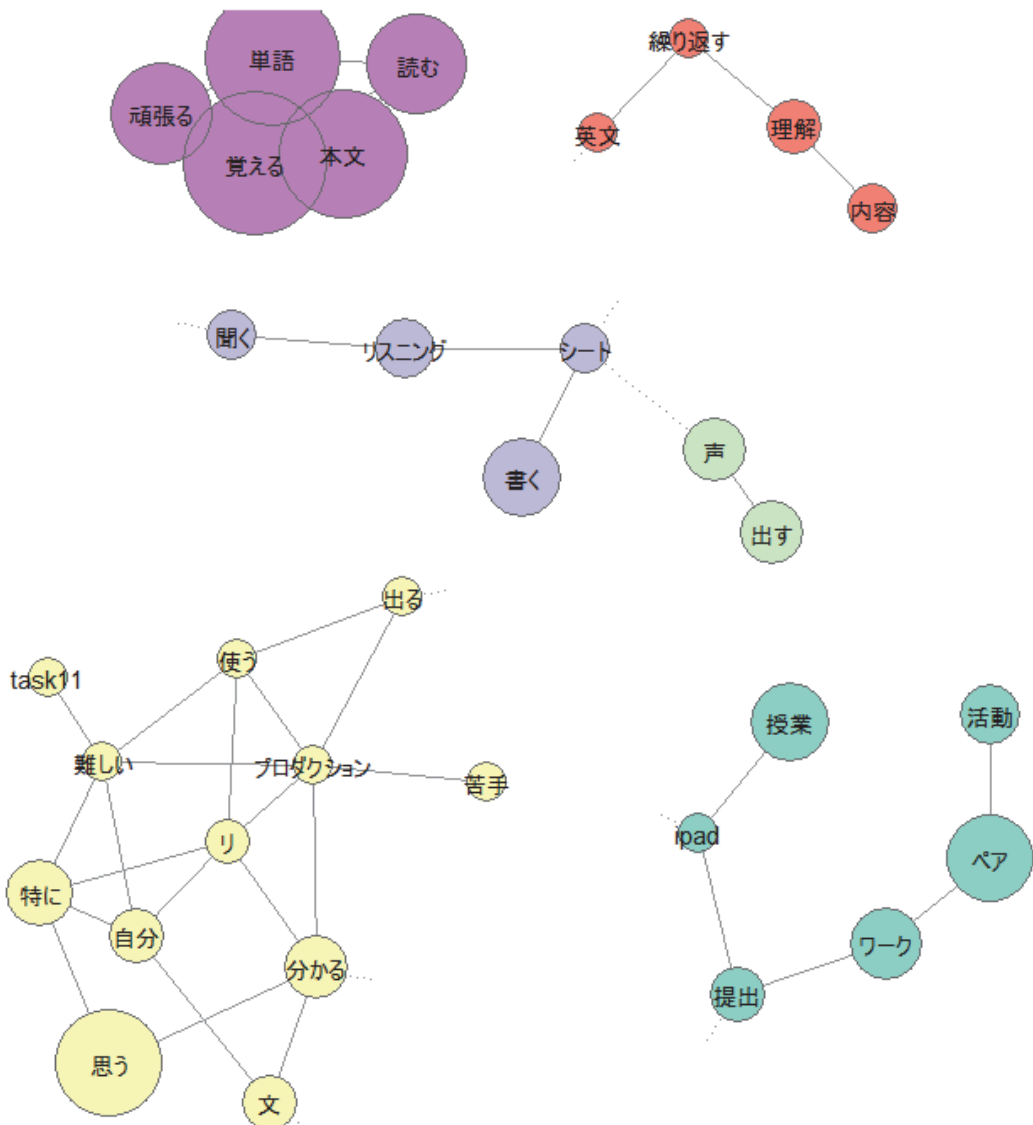
仮説 5 多様な学習方法で語彙学習を行うことで、より深い語彙学習ができるのではないか。

1) リーディング活動やリスニング活動をはじめ、リプロダクションや簡単なゲームを取り入れたり、宿題として、音読筆写や語彙探究をさせるなど、様々な難易度で様々な角度からの活動に生徒が取り組む。

5. 生徒の声

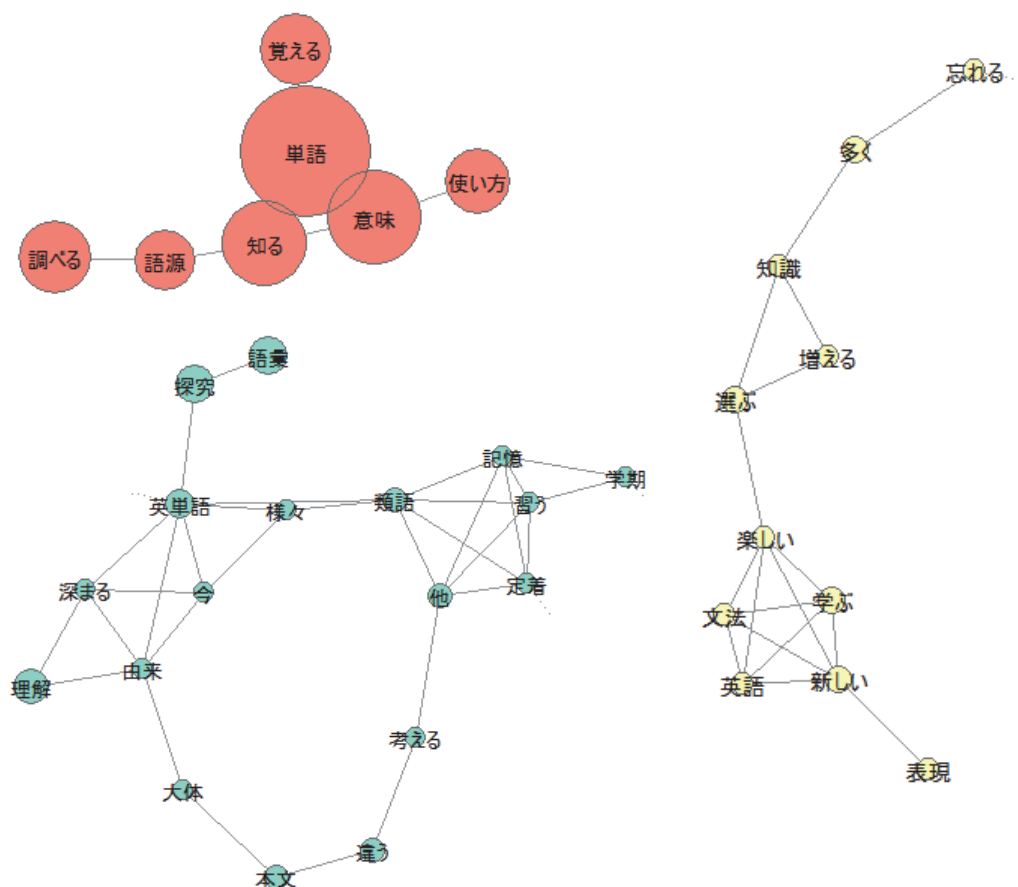
英語語彙学習に関するアンケートの中の以下の項目についての khcoder を使い、生徒の声を取り上げる。代表的に言葉を取り上げて以下に分析する。

質問 1 : どのように授業の活動に取り組みましたか？ 取り組んだ感想を具体的に教えてください。



「単語」「本文」「覚える」が最も多く出現しており、また「頑張る」という言葉とつながっており、生徒は単語や本文を覚えることに頑張っており、取り組んだことが推察される。「リプロダクション」「難しい」「苦手」という言葉がつながっていることで、リプロダクションの活動に困難を感じていたことが推察される。しかし、「分かる」という言葉がつながっていることから、分かるために行動したのかもしれないなど、生徒の前向きな姿勢も推察される。また、「ペア」「ワーク」「活動」も多く出現しており、生徒はペア活動にも取り組んだことが推察される。さらに、「英文」「繰り返す」が一緒に登場しており、「内容」と「理解」がつながって出現していることから、英文を繰り返すという活動を行い、内容理解につながったと生徒は捉えていることも推察される。「シート」と「リスニング」「書く」「声」「出す」とつながっていることから、生徒は授業のワークシートにあるリスニング、ライティング、音読など様々な活動に取り組んだことが推察される。

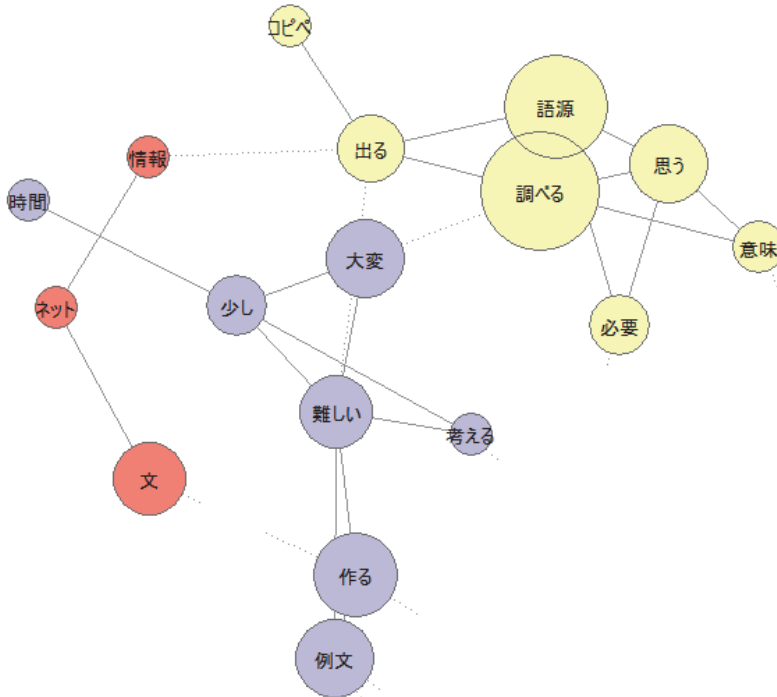
質問2：語彙探究を1年間やってみて、良かったところを教えてください。



「単語」の出現頻度が最も高く、「覚える」「知る」と強く関連していることが読み取れる。よって、単語を覚えたり、知ったりすることが語彙探究の良い点であったことが推察される。また、「深まる」「考える」「定着」という言葉が出現しており、ただ英単語の日本語訳を覚えるだけではできなかった深く語彙を学ぶ学習を生徒は行うことができたのでは

と推察される。また、「知識」と「増える」が関連して出現している点、「楽しい」「学ぶ」「新しい」「英語」「文法」が関連して出現している点より、前向きに生徒が学習することができたのではとも推察される。

質問3：語彙探究を1年間やってみて、良くなかったところを教えてください。



「語源」「調べる」が最も多く出現している。また、「大変」との関連も見取れることから、語源を調べるのが大変であったのではとも推察される。「例文」「作る」と「難しい」が関連して出現していることから、例文を作ることが難しかったのではとも推察される。良い点もある一方、生徒にとっては語彙探究は負担にもなっていたということは認めなければならない。

6. 考察と結論

どのようにしたら、英語の苦手な生徒でも前向きに語彙学習に取り組むことができるかを試行錯誤してきた。仮説に挙げたように、①4技能をできる限り使った様々な活動を取り入れること②復習させること③楽しく学習させること④個別支援することが大切なのではと考察する。

授業に取り組んだ感想についての生徒の声（Khcoderの共起ネットワーク使用）より、単語や本文を覚えることを頑張ったということが推察されること、また、リプロダクションのような難しい活動にも「分かる」ようになるための行動を起こしたことも推察され、全体として、仮説に基づく今回の実践において、生徒が前向きに取り組んだ姿勢が一定読み取れる。

語彙探究の活動についての生徒の声（Khcoderの共起ネットワーク使用）より、「深ま

る」「考える」「定着」という言葉が出現していることから、ただ単語の意味を覚えるだけではなく、様々な角度から学習させることで、語彙学習に深まりが生まれ、定着へつながっていくことが考察される。

Nation (2021) によると、「語彙の習得は、さまざまな知識の側面を伴う累積的な過程であるという考え方があり、学習者が語を完全に習得するためには、その語に対して多様な形式で繰り返し接する必要があります」と記されている。今回の実践はこの考えと一致するものであると確認された。

ただし、それぞれの活動や教師からの支援がどのように生徒の前向きな姿勢につながったのか、また、実際に生徒の語彙力が上がったのかは不透明であり、今後検証が必要である。また、語彙探究などのやや時間の要するか活動に対しては生徒に過度の負担をかけさせないように注意が必要である。

7. 今後について

今回の実践のように、4技能を使いながら、できる限り様々な語彙学習活動を授業内外で生徒に提案し、行っていきたい。また、その際、生徒が負担感をあまり感じずに、楽しく学習でき、学習を継続できるような授業実践を今後も追及していくべく、どのような工夫ができるか検討していきたい。加えて、今後はこの4技能を使った語彙指導において、アンケート結果だけでなく、テストなどを通して語彙力の伸びも測り、実践をより多面的に検証していきたい。

参考文献

I.S.P Nation (2001). *Learning Vocabulary in Another Language*. Cambridge University Press.

ベネッセ教育総合研究所. (2014). 中高生の英語学習に関する実態調査2014.

https://benesse.jp/berd/up_images/research/Teenagers_English_learning_Survey-2014_05.pdf

文部科学省. (2018). *高等学校学習指導要領 (平成 30 年告示) 解説 外国語編 英語編*. 文部科学省

https://www.mext.go.jp/content/1407073_09_1_2.pdf

